

セルフモニタリング報告書（令和7年度分）

令和 8 年 4 月 1 日

施設名：大成児童センター

指定管理者名：シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社

所管課名：こども未来部 こども若者支援課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価				
1 事業計画の達成度						
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	事業計画に従い、実施回数、プログラム内容ともに計画通り実施し、適切な運営ができました。	A	B	C	D	E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	今年度は利用者数が12%の減少となりました。その原因は児童クラブ登録者の減少と幼児の団体利用の減少が考えられます。しかしながら、児童、幼児の利用者からの当センターの評価は高く、増加につながる潜在的要素は十分あると考え、来年度は新たな取り組みをして増加を図りたいと考えています。	A	B	C	D	E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。		－	－	－	－	－
自主事業は計画どおり行われたか。	実施回数、事業内容ともに計画を上回ることができました。行事内容の変更と追加は、子ども会議・アンケートの実施など利用者の要望を反映した結果であり、利用者からも好評を得ました。	A	B	C	D	E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	センターまつりでは、出店の一部を地域の方に担当していただき、近隣の中学校・高校のボランティア部等にも参加してもらい、例年と同様に開催できました。また、地震・津波避難訓練では、一時避難場所である道営住宅の自治体役員の方々が全員訓練に参加し、児童の避難誘導を見守ってくれました。外部連携としては未来キッチン（こども食堂）、kamakura（社会福祉協議会ヤングケアラー相談）等を開催しました。また、近隣小学校の主幹教諭とは年3回、児童の様子と成長を共有するため会議を実施しています。	A	B	C	D	E
2. 利用者の満足度						
利用者の満足が得られているか。	2回実施の利用者アンケートでは、すべて『満足』か『やや満足』の回答で占められ、特にアンケートの自由欄に、『皆さんとても感じがよく、安心して過ごせます』『きれいで楽しめる』また、『イベントの回数も多く楽しめそう』など、職員の対応、環境整備、プログラムの内容について高評価をいただきました。	A	B	C	D	E

利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	利用児童と接する中で児童の興味、関心を聞きだしたり、アンケートなどで児童の要望の収集をするなどして、行事企画をする際の参考にし、利用者が楽しんで参加できるように努めました。 保護者が来館した際は、必ず挨拶以外の会話もしながら、意見や要望などを引き出せるよう心掛け、子育ての悩みや心配ごとにも寄り添い、話を聞くよう努めました。	A	B	C	D	E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	日頃より利用児童・保護者とのコミュニケーションを取る事で信頼関係の構築に努めました。意見・要望に関しては日誌や口頭によって必ず全員で共有し、その上で可能な限り迅速に協議しながら対応しています。今年度も大きな苦情もなく終える事ができました。	A	B	C	D	E
3 管理運営の効率性						
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	館内の修繕や、除雪などを極力職員の手によって行い、経費の削減を行っています。 光熱水費についても設定温度に気を配り、無駄なエネルギーを消費しないように対応しました。また、物品購入においては必要度合い、価格をしっかりと検討し購入しました。	A	B	C	D	E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	消防設備点検・定期清掃業務・警備業務は地元業者に依頼しております。修繕などあった場合、金額は業者決定前に相見積を取り委託をしています。金額面のみではなく、業務内容についても精査を行い、最小かつ適切な水準を保っています。	A	B	C	D	E
収入増加のための取組はされているか。	貸館申請が増え、シフト外に対応することもありましたが、職員のシフト変更で対応し、少しでも収入が増加するように努力しました。貸館徴収料金は前年度比47%の増収となりました。	A	B	C	D	E
4 適正な管理運営						
職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。	社内動画を利用したオンライン研修の全員受講や2回の市内児童センター職員交換研修により能力向上に努めました。また、職務に直結する資格も意欲的に取り組み、放課後支援員資格認定講習、防火管理者講習を受講し、資格取得をして資質のさらなる向上に努めました。また、職務に直結する資格も意欲的に取り組み、放課後支援員資格認定講習、防火管理者講習を受講し資格取得をして資質のさらなる向上に努めました。	A	B	C	D	E
安全対策（事故防止等）は十分だったか。	館内の日常点検で危険物・破損物などを除去できるようにしています。日常活動では館内の状況を見ながら、遊ぶ場所に不具合が生じたら職員間で共有し、利用者が安全で過ごしやすい環境づくりに配慮しました。また、長期休みで児童が多くなる時期は、学年を分ける、遊び方を変えるなどして児童が安全に遊べるように配慮しました。	A	B	C	D	E

人員配置及び職員の管理体制は適正か。	配置基準の遵守と併せて、職員間のコミュニケーションを密にすることにより、安心して働ける環境を整備できました。営業所にて配置確認表を最終確認して管理しています。	適		不適		
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。	施設利用にあたっては、広く情報提供するとともに、行事の申込み方法もわかりやすく明示し、窓口だけではなく電話での受付対応も行っています。貸館についても公正に利用日を調整し、職員のシフトを工夫しながら可能な限り受け入れています。	適		不適		
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	個人情報に記載されている書類は鍵のかかるロッカーに保管し、その鍵をさらに保管ボックスにて二重施錠管理しています。 新聞等に写真や記事が掲載される場合は保護者に確認を取り、内容をチェックするようにしています。	適		不適		
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	入金時には複数の職員で逐一チェックを行い、営業所への受け渡しの際まで鍵のかかるロッカーで保管し、営業所にて最終確認後、入金処理をしています。	適		不適		
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	法定点検は外部業者に委託し、適正に管理を行いました。 日常の館内保守点検に関しては、毎日職員が点検表に沿って行い、利用者に安心・安全に利用してもらえるよう努めています。	適		不適		
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	過年度の書類も年度、項目ごとにファイリングし、保管庫において管理し、二重施錠管理しています。備品においても故障・破損・補充について営業所に速やかに報告し、適正に管理しています。	適		不適		
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	全職員がコンプライアンスを重視した管理運営を行っています。 万が一コンプライアンス違反があった場合に備え、本社にコンプライアンス相談窓口を設け、いつでも相談できる体制になっています。	適		不適		
5 地域貢献						
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	資材調達や外部委託は可能な限り地元業者をお願いしています。 雇用に関しては全職員が苫小牧在住となっています。	A	B	C	D	E

- A：目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B：目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C：概ね目標、事業計画どおり行われおり、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D：目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E：目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

総合評価



【★の数が5～0の6段階評価で評価しています。】

〈 4 適正な管理運営において不適がある場合、その理由と今後の対応について 〉

指定管理者の自己評価（全体を通して）

今年度2回実施した利用者アンケートでは、すべての項目について『満足』、『やや満足』の評価を受け、利用者の満足度は高かったと考えています。特に、大成児童センターが継続して実施している特色ある行事（飲食イベント、トランポリン、エア遊具などの大型遊具の設置）は、準備・実施ともに大変な手間のかかる行事であり、職員の意欲と効率の良い業務態勢を構築することにより実施可能な行事でもあります。利用者もその点を周知し、高評価していただいたと思います。また、利用者の要望を迅速に行事に反映させ追加事業を設定できたのも同様高評価につながったと思います。

利用者数としては、今年度の利用者数は15,388名（昨年17,541名）で、前年度を12%下回ってしまいました。減少の原因としては児童クラブ登録者が4名に減少した点と、保育所、幼稚園等の団体利用が減少してしまった点が大きく影響しています。

しかしながら、一昨年利用者数11,460名と比べた場合、今年度の数値は、近隣の学校の生徒数の推移から見ると想定内のものと考えられます。児童に対して魅力あるプログラムを引き続き展開し、自由来館の増員を図りたいと考えています。

幼児利用者は、年度後半『とまべピータイム』をきっかけに個人利用の増員が見られました。個人利用者のリピートサイクルを短期間化するため、来館カードの導入も考えています。

一方、高校生の利用者は増加を続けたが、現利用者の大半が高校3年生で卒業したため、来年度は幼児施設と高校への広報活動は必須であると考えています。

大成児童センターはその設置目的の趣旨を理解し、来年度も地域子ども達が安心して過ごせる生活と遊びの場を提供し、保護者をはじめ、学校や地域の方々と連携を図りながら子ども達の育成支援を行っていきます。

今後とも、こども未来部こども若者支援課の皆様をはじめ、苫小牧市役所の皆様のお力添えを、何卒よろしくお願い申し上げます。